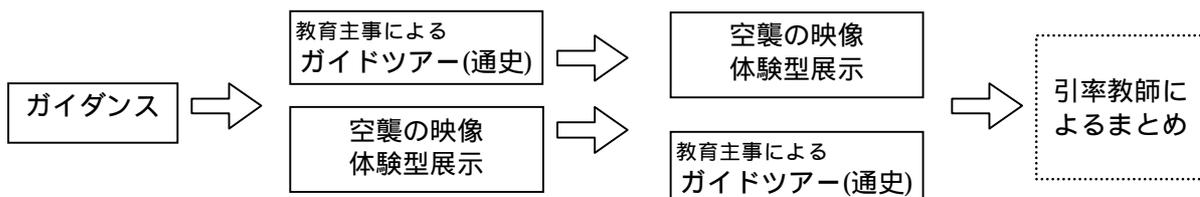


小6 社会(歴史)の発展学習として

小淵沢小学校の6年生では、社会科(6年社会)の発展学習として、博物館で山梨県の歴史に関する資料を見学することにした。なお、児童数が多いので、2グループ(クラスごと)に分け、ローテーションで見学することにした。

事前 社会科の授業の中で、随時、甲斐国・山梨県の歴史に触れていたが、見学前に2時間、『かいじあむ歴史かみしばい』を活用しながら甲斐国・山梨県の歴史の概要を指導した。

当日の流れ



活用した展示資料

空襲映像視聴

いわゆる15年戦争の学習を行っている最中だったため、子どもたちは興味深く視聴した。甲府空襲については事前学習も行ったが、映像を通して、いっそう具体的・感覚的に、空襲の実態や戦争末期の情勢をとらえることができたと思われる。



木簡

社会科教科書に掲載されている木簡については、史料としての重要性を学習したが、実際の木簡を見ることができたことは貴重な経験である。木簡が語る当時の暮らしや社会について、見学後、改めて学習を深めた。



体験展示

十分な時間がとれたとはいえないが、ゲームやクイズ、衣類の試着など、自由な学習活動から、身近な歴史や自然環境の特質について興味を持てたことが、見学後の話し合いや作文からうかがえた。



道祖神幕

浮世絵の美術的価値は、図工でも触れたが、代表的作家・歌川広重が甲府を訪れて描いた道祖神幕は、甲州の文化的先進性を知る上で重要である。地域にも「どんど焼き」「お日待ち」と呼ばれる道祖神祭りが残っているが、その意味を探る手がかりにもなった。



事後

しおりをまとめ、見学の感想等を作文に書かせた。

一言

実施時期、見学施設、日程等は適切だった。事前準備・指導については、見学の重点がしぼれておらず、しおりにも工夫がたりなかった。事前指導を2時間おこなったが、山梨県の歴史の概略を知らせるにとどまり、実際の見学で理解を深めることができたとはいえない。見学の状況については、各見学施設(武田館跡、藤村記念館)で、専門家の解説を聞くことができたことは意義深い。社会科の歴史学習をもとにしつつ、山梨県の歴史の特性の一端に触れることができた。県立博物館の見学では、自由見学時間を設け、各自のテーマや関心に応じた見学や学習ができるようにすべきだった。興味関心の差が大きく、それが聞いたり観たりする態度に現れていた。日常の学習指導を反省しなければならない。
(小淵沢小学校 矢崎茂男)